１０月の普及活動状況

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜県農政部農業経営課

＝目　　次＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

＜１０月普及活動状況ダイジェスト版＞

新たな産地づくりの推進　～活力ある新産地づくり～

西濃農林　■ブロッコリー　**直播栽培実証圃の経過**

コスト削減を目的に、農業普及課で設置した直播栽培実証試験の調査を行い、結果をまとめた。直播栽培は、大垣市、輪之内町の２か所とも、移植栽培に比べて農薬費や人件費が多く掛かり、逆にコスト高となる結果となった。

また、早生種で実証した大垣市では発芽率が悪く、苗を植え直したが、輪之内町では生育が順調で、移植苗に比べ葉数が２～６枚進んでおり、収穫が早まる見込みである。

中濃農林　■円空さといも　**円空さといも生産振興会議を開催**

10月４日、20日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの販売方法、新規栽培者の勧誘等について検討した。今後は、これまでの検討結果をまとめて、円空さといも産地振興プロジェクトを立ち上げ、取組を強化していく。

また、農業普及課では、各実証ほの収穫調査を行い、来年度以降の安定生産につなげるなど、栽培面でも継続的な指導を行う。

郡上農林　■ひるがの高原にんじん　**秋にんじん出荷目揃え会**

ひるがのファイト倶楽部では、10 月 18 日（火）に秋にんじんの出荷目揃え会を行った。

ひるがの高原にんじんは､糖度計で計測すると 8.5～9.5 度であったことから、食味面で他産地と差別化を図り、有利販売できると思われた。

秋にんじんの出荷は、11 月 20 日まで行う見込みである。

出荷目揃え会の様子

可茂農林　■加工ねぎ　**坂祝町青ねぎプラグ苗配布**

坂祝町青ねぎ生産部会は、夏場の安定的な苗づくりを目指して、部会長のほ場で試行的にプラグ苗づくりに取り組んでおり、１０月１２日に部会員への定植苗を配布した。農業普及課では、用土等の資材を変えて生育比較試験を実施するなど地域にあった育苗方法について検討した。配布した苗は、トンネル栽培で年内出荷、露地で3 月出荷を予定している。

プラグ苗配布の様子

下呂農林　■龍の瞳　**「龍の瞳生産者大会」並びに「新米コンテスト」盛大に開催**

10 月 23 日に「龍の瞳生産者大会」､「環境に優しい米づくり講演会」及び「めざせ世界一！安全でおいしい新米コンテスト」が下呂市萩原町の「南ひだ健康道場」にて開催された。主催は､「合資会社龍の瞳」で、毎年開催されている地元実行委員会主催の「秋の大収穫祭」にコラボレーションさせる形で今年初めて開かれた。

農業普及課では､「組織運営の強化並びに生産の振興」と「龍の瞳による地域起こし」の二本 を重点指導項目としている。今回は､「龍の瞳による地域起こし」の核となる活動であり、８月に「下呂地域産地戦略会議」で方針を決定し、下呂市他と連携して支援を行った。

食味コンテストの様子

主要農産物の生産振興　～売れる農産物づくりと産地の強化～

岐阜農林■えだまめ　**えだまめ栽培研修会開催**

えだまめ栽培を開始して間もない営農組織や新規作付け希望者など約25名を対象に10月3日に栽培研修会を開催した。農業普及課では、育苗管理、害虫防除、防虫ネット栽培、ＧＡＰの取り組みを説明するとともに、防虫ネット実証展示ほ場において現地指導を行った。こ

栽培研修会の様子

の他、後期作型の現地検討会を9月30日に開催し、生産者や全農、ＪＡ等関係機関とこれまでの生育状況や出荷予測についての情報交換を行った。

揖斐農林　**■大麦　大麦の奨励品種決定現地調査ほを設置**

揖斐管内では、平成２３年産から大麦「ミノリムギ」の作付けを開始し、麦類栽培面積を拡大した。大麦は、麦茶加工用として需要は大きい中、ミノリムギは、草丈が高いため倒伏しやすい点や成熟期が遅く小麦との作業競合が懸念されるなど課題がある。

そこで、農業普及課では、麦茶専用品種で草丈が低く成熟期が早い品種として「さやかぜ」「カシマゴール」の品種試験ほを設置した。１０月２０日に播種が行われ、その後の出芽状況は順調である。今後、定期的に生育状況を調査し、戦略作物である麦類の生産安定と作付け拡大を支援する。

大麦播種（揖斐川町谷汲）

恵那農林　**■飼料用稲耕畜連携に向けて～飼料用稲・わら流通検討会を開催～**

農業普及課は10月11日、ＪＡ東美濃と連携して、飼料用米と稲わらの流通検討会を開催した。管内では、本年度域内流通の飼料用米及び稲わらが約21haで栽培されている。収穫が本格化するに当たり、生産状況や引き渡し方法などについて耕種・畜産双方が出席し、生産量並びに消費量の見込みに関する意見交換を行った。また、関係機関からは、飼料用米の流通に関する留意事項や、新技術の情報提供がなされた。

鉄コーティングの成果を説明する普及指導員

飛騨農林**■飛騨トマト地球温暖化現地検討会（第２回）開催！**

10 月 13 日、夏秋トマト地球温暖化現地検討会を開催し、普及支援協会、国研究機関、資材メーカー、農業普及課の関係者で、今年の夏の高温対策実証ほの成果について検討した。

丹生川町の循環扇（ファン）設置ほでは、ハウスの環境改善（涼しく感じる）及び灰色かび病抑制効果が確認された。また、清見町の通路潅水実証ほでは、樹勢維持及び着果数増加効果が確認された。

今年は、昨年ほどの猛暑ではなかったが、生産現場では樹勢低下や天候不順による病害果多発等、単収を落とす問題が発生した年だった。いずれの実証ほも良い成果を上げており、この成果を夏の高温対策、ひいてはトマトの単収向上対策として、今後普及していきたい。

ﾎﾞﾙﾅﾙﾄﾞﾌｧﾝ設置ほ(丹生川町)

担い手の育成確保　～明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成～

東濃農林　**（新規就農者への支援　～就農連携会議の実施～）**

新規就農相談者に対する支援を関係機関が連携して行うことを目的とする、今年度２回目の「就農連携会議」を10月27日に東濃総合庁舎において開催し、就農相談情報の共有、就農支援の役割分担を確認した。また、24年度就農をめざしている２名の相談者に対しては、個別就農相談会を実施しながら、市、ＪＡとともに、農地の確保、営農計画の作成を支援し、就農認定に向け準備を進めている。系統出荷の作目がない当管内においては、販路が課題となるため、地場消費を主体に直売所、量販店への直売等、東濃ならではの販路の確保をＪＡとともに助言した。

個別就農相談会

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取組～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

■（えだまめ栽培研修会開催）

えだまめ栽培を開始して間もない営農組織や新規作付け希望者など約25名を対象に10月3日に栽培研修会を開催した。育苗管理、害虫防除、防虫ネット栽培、ＧＡＰの取り組みを説明するとともに、防虫ネット実証展示ほ場において現地指導を行った。この他、後期作型の現地検討会を9月30日に開催し、生産者や全農、ＪＡ等関係機関とこれまでの生育状況や出荷予測についての情報交換を行った。

えだまめの 10 月中旬までの出荷量は約 962t（対前年比 99%）、販売金額約 737 百万円（対前年比 103%）である。

【写真】栽培研修会の様子

■（アスパラ塾開催）

塾生と関係者20名が集まって第2回アスパラ塾が9月30日に開催された。今回は「育苗から定植までの行程」と「自分でハウスを立てる」をテーマに農業普及課からは育苗と定植の作業ポイントについて詳しく説明し、理解を図った。また、資材業者からは初期投資削減策のためのハウス建設方法について情報提供を行った。

塾生からは活発に質問が出され、アスパラ栽培に向けての意欲が伺えるなど、有意義な塾となった。

【写真】第 2 回ｱｽﾊﾟﾗ塾の様子

主要農作物の生産振興

■小麦

（岐阜県麦作共励会最優秀賞決定）

安藤重夫氏（本巣市）が２３年度岐阜県麦作共励会の農家の部で最優秀賞に決定し、東海・近畿ブロック麦作共励会においても１位通過し、全国中央審査への推薦が決定した。

■いちご

（ＪＡぎふいちご塾支援）

いちご新規就農者の育成確保のため、JAぎふと農業普及課では、8月からいちご塾を開催している。9月に入り塾生が3名増え、いちごの栽培方法についての講義や定植作業やマルチ張りなどの実習にも熱心に取り組んでいる。農業普及課では、技術指導の支援を行っている。

【写真】現地研修会の様子

■ブロッコリー

（良品出荷に向けた作業実施中）

充実した株づくりのため、現在、追肥や中耕培土等が行われおり、適期作業を指導している。しかし台風による定植遅れや気温が低く推移しているため、昨年より出荷開始が遅れる模様(本格出荷は11月10日以降か、昨年は10/27～)である。

今年度から新規導入した羽島市では現地研修会を開催し、生育状況を確認しながら、管理ポイントを指導した。

【写真】現地指導の様子

■かき

かきの出荷始まる！

管内の各柿選果場では、10 月 3 日の本巣市を皮切りに本格稼働を開始し、出荷が始まった。期待の新品種「早秋」は、軟果が多いものの高値で 2,500～2,700 円/3.5kg とまずまずの単価で推移した。一方「太秋」は、糸貫選果場の初値の高値が 4,000 円/3.5kg と非常に高い評価をうけ、今月下旬まで出荷は続く。

「早生富有」は 10 日頃から収穫が始まったが、遅れていた着色も平年並みに近づいているものの、小玉傾向でＬ・Ｍ中心となっている。

【写真】糸貫選果場
早生富有目揃い会

農業普及課では病害虫指導、選果指導等を行い、産地ブランドの向上に努めている。

担い手の育成・確保

■集落営農組織・営農組合

（方県地区担い手対象にぎふクリーン農業研修会開催）

今年４月に設立された方県水田農業担い手協議会において、9 月 22 日にぎふクリーン農業についての研修会を開催し、農業普及課から米で取り組む場合のポイントを説明した。その後、堆肥を使った栽培方法やＪＡ荷受の必要性等、様々な意見交換を行った。生産登録をするまで課題は多いが、農業普及課としては、今後も支援を行ってゆく。

■女性起業組織活動

（柿のシーズン到来！加工にも拍車）

瑞穂市柿振興会女性部「柿りん」では、本格的な柿の収穫を前に柿ジャムの製造が行われ、今後、開催される各種イベントでも販売を予定している。農業普及課では組織活動に際し、加工計画、情報発信等に関する支援を行っている。

地域の動き等

■岐阜市

（園芸塾継続中）

三輪地域では来年 3 月末に 3 支店が統合し、直売所が併設される計画である。直売所出荷者の増加に向けて JA ぎふ主催の園芸塾が開催されており、農業普及課も支援を行っている。園芸塾生に対して 3 月出荷用のはくさい、キャベツ、ブロッコリーの苗が配布された。

■農業体験学習指導

（一般消費者の稲刈り体験を実施）

10 月 8 日、アイガモ稲作研究会と千代菊が連携して、羽島体験プロジェクト「米から酒までマイブランドを作る」の稲刈り体験が実施された。当日は、約１００名の親子が参加し、あいがも稲作圃場で手刈りを体験した。農業普及課では、手刈りのやり方、注意点等について説明を行い、体験教室の開催を支援し、安全に稲刈り体験が進められた。

【写真】稲刈り収穫体験の様子

■本巣市

（かき新選果場稼働）

ＪＡぎふ糸貫選果場が新選果場として生まれ変わり、竣工式が９月２９日に執り行われ、１０月３日から本格稼働した。新選果機はフリートレイ式で糖度センサーを導入し、糸貫のかきのより一層のブランド化を図っていく予定である。

総工費約８億円（市補助約４千万円）

【写真】糸貫選果場の新選果機

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

直播栽培実証圃の経過

コスト削減を狙った直播栽培実証試験は大垣市、輪之内町の２か所とも、移植栽培よりも農薬費や人件費が多く掛かり、逆にコスト高となる結果となった。

また、早生種で実証した大垣市では発芽率が悪く、苗を植え直したが、輪之内町では生育が順調で、移植苗に比べ葉数が２～６枚進んでおり、収穫が早まる見込みである。

収穫始まる

定植作業は 10 月上旬で全てが終了した。一部地区でネキリムシの被害がみられたが、全体に病害虫の発生は少ない。生育は昨年より気温が低いため、やや遅れ気味であるが、出荷が最も早い「ピクセル」で 10 月 24 日から出荷が開始された。

主要農作物の生産振興

■水稲

早生、中生品種の品質はまずまず

早生、中生品種の品質が概ね確定した。

昨年は高温障害による品質低下（白未熟粒）が発生したが、23 年産のコシヒカリの一部で白未熟米が見られたが、全般的に昨年より米質は良く、ＪＡの施設ではすべて１等調製となった。中生品種のあさひの夢では昨年ほどではないものの白未熟米による品質低下が見られ、１等と２等が半々となった。

収量は、10 月 15 日時点の本県の作況指数は 99 と発表されたが、全体に充実不足気味で、平年よりやや少なめの見込みである。

ハツシモ収穫始まる

ハツシモの収穫は、早植えで９月下旬から、普通植えで 10 月上旬から始まった。大垣市や安八地域の一部を除き、10 月中に収穫は終了した。

９月の天候がやや低温、日照不足気味に推移したため、品質は充実不足などが見られるが、概ね１等調製ができると思われる。

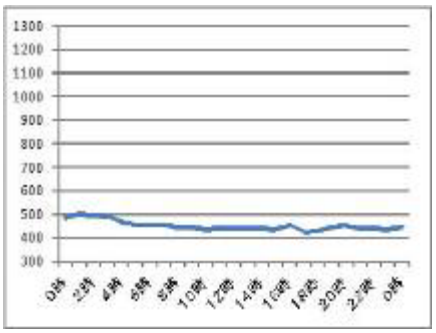
【写真】ハツシモの収穫状況
(安八町)

■トマト

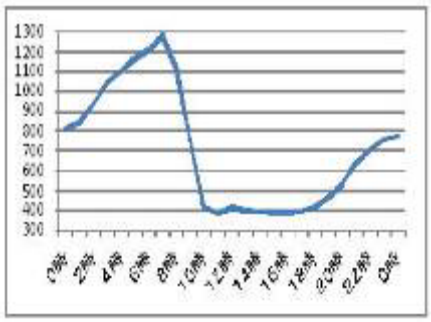
環境制御の関心高まる

９月 13 日に行われた県施設部会中央研修会の公演後、環境制御（湿度・CO_2）に対する生産者の反響が大きく、問い合わせが増加した。農業普及課では CO_2測定器を生産者に設置し、現在のハウス環境調査を開始した。今後、部会員への情報提供を行い、具体案を検討していく。

Ａ生産者のＣＯ２濃度（１０月上旬）



換気口前回の場合



換気を減らした場合

新規就農希望者の支援

現在、愛知県出身で海津トマト部会生産者ほ場で研修（新規就農者育成事業）を行っている研修生が、地域で空きハウスが出たため、次年度から就農できるよう支援を開始した。

■たまねぎ

加工用たまねぎの栽培開始

海津市では、札野(27a)、平原(50a)、福江(100a)、南濃北部(11a)の４組織で加工用たまねぎ栽培に取り組むこととなり、9月 27 日～10 月 7 日にかけてそれぞれの組合で苗場への播種を行った（品種：もみじ３号）。

【写真】平原営農組合での播種の様

■なし

今年産梨の収穫終了

23 産梨の収穫はほぼ終了した。栽培研修会では、今年の反省をもとに情報提供を行った。

農業経営課技術支援担当の協力を得て白紋羽病　対策を目的に温水消毒（９月 28 日）の実証を行った。

改植後も効果確認等の支援を継続する。

【写真】温湯による土壌消毒の様子

■かき

富有等の生育状況

10 月 18 日に南濃町柿研究会、19 日に養老町果樹振興会で富有、陽豊を対象に出荷説明会が開催された。農業普及課からは生育状況と今後の管理、出荷の注意点等を説明した。着色は昨年よりやや早いが、例年より遅めとなっている。また、出荷量は例年の 80%程度と少なめになると思われる。

鳥獣害対策として花火鉄砲を普及しており、鉄砲を作成した農家は多いが、まだ柿園内での猿との遭遇例は少ない。今後、着色の進行に従い注意が必要である。

【写真】柿目揃い会の様子

■フランネルフラワー

秋作が終盤近づく

鉢花は、秋出荷が終盤となっており。ほぼ終わった人、遅れている人等個人差が出ている。古土を活用した農家は、夏過ぎからロスが多くなり、出荷は少なくなった。

逆に４月播種分については、まだ出荷できていない。

新規栽培農家は１戸出荷を開始したが、水管理が絞り過ぎ傾向でロスが多くなった。

切り花は、定植後、順調に生育中であるが、育苗段階で過湿気味になったものは生育が遅れ気味である。

【写真】出荷を待つ鉢花フランネル

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

■土地利用型農業の推進を支援

小麦の高品質生産に向けて研修会を開催

平成２４年産小麦「イワイダイチ」の播種に向けて、１０月４日に小麦生産者研修会を開催した。凍霜害や登熟期の降雨により不作であった前年の反省を踏まえ、今年度は適期播種や排水対策の徹底、更に生育に応じた管理を行うことにより、高品質安定生産を目指す。また、研修会終了後、県内産イワイノダイチを使用したうどんの試食を行い、実需者の需要に合った高品質な小麦生産に向けて、生産者の意識向上を図った。

大麦の奨励品種決定現地調査ほを設置

揖斐管内では、平成２３年産から大麦「ミノリムギ」の作付けを開始し、麦類栽培面積を拡大した。大麦は、麦茶加工用として需要は大きい中、ミノリムギは、草丈が高いため倒伏しやすい点や成熟期が遅く小麦との作業競合が懸念されるなど課題がある。

そこで、農業普及課では、麦茶専用品種で草丈が低く成熟期が早い品種として「さやかぜ」「カシマゴール」の品種試験ほを設置した。１０月２０日に播種が行われ、その後の出芽状況は順調である。今後、定期的に生育状況を調査し、戦略作物である麦類の生産安定と作付け拡大を支援する。

【写真】大麦播種（揖斐川町谷汲）

主要農作物の生産振興

■柿

順調に収穫本番を迎えた早秋、太秋

ＪＡいび川柿選果場では、早秋及び太秋の選果が１０月に入ってピークを迎え、専用フリートレイ式選果機で選果が行われている。

早秋は、昨年天候の影響により出荷量が減少したが、今年は生産量が回復し、太秋も昨年以上の出荷量が見込まれている。両品種とも良食味に仕上がり、京浜及び地元市場等へ出荷されている。今後、富有柿の収穫期を迎え、更に選果の徹底を図り高品質な柿生産を支援する。

農業フェスティバルで大野の柿をＰＲ

大野町かき振興会は、県農業フェスティバル会場で柿の試食販売を実施し、「大野の柿」の消費宣伝を図った。農業普及課は、消費者に新品種等の情報提供を行い消費拡大に向けたＰＲを行った。２日間通して多くの来客があり、十分なＰＲが出来たと思われる。

■いちご

腋花房の花芽検鏡及びマルチ前研修会の開催

１０月５日から１１日に腋花房の花芽検鏡を実施した。また、大野町苺生産組合（１０／１１）、揖斐川いちご生産組合（１０／１４）のマルチ前研修会がそれぞれ開催され、花芽検鏡の結果と当面の管理について研修した。頂花房の花芽分化は昨年より１週間程度

早かったが、定植後の台風等の影響により生育は平年並みとなっている。

■実バラ

坂内の実バラ、出荷開始

１０月５日、実バラの目揃え会が開催され支援した 。台風の影響など懸念されたが、昨年に比べると枝黒などの品質低下は少なく、出荷量は昨年より増加する見込み。

市場担当者から、望まれる荷姿や規格に関する説明を聞いた後、全農及び市場担当者を中心に組合員が意見を出し合い、出荷についての方向性や規格の検討を行い今年度の規格を決定した。

出荷は１０月１１日から始まり、１１月上旬に終了の見込み。

■ニンニク

新規栽培者作付け開始

揖斐川町坂内地区で本年からニンニクの新規栽培に４人が取り組むことになり、１０月中旬に種子の植付けが行われた。複合経営の１品目として導入、定年後の農業経営を志す人など、作付け開始の動機は様々である。農業普及課では、新たな地域の特産品となることを目指して、今後も栽培技術支援等を行っていく予定である。

担い手の育成・確保

■新規就農

就農開始（いちご、トマト）を支援

昨年来、就農相談から継続的に支援を行ってきた就農希望者が、それぞれ就農を開始した。いちご（２名）、トマト（１名）がそれぞれ施設を導入し、今期の苗を定植、本格的に作業を開始した。今後、農業普及課では、新規栽培者の実践技術の習得と生産安定に向けて重点的に支援を継続する予定である。

また、新規就農後３年目となる大野町の後藤雅哉氏は、第３６回岐阜県いちご共進会において最優秀新人賞を受賞され、今後続く管内の新規就農者への目標となることが期待される。

地域の動き等

■茶

岐阜県お茶まつり

１０月２２日、第２５回岐阜県農業フェスティバル会場内において、平成２３年度岐阜県お茶祭りが開催された。昨年までは県内主要町村持ち回りで茶業振興大会が行われていたが、本年より消費地における消費ＰＲを主眼に置いた大会とするため、同会場となった。

茶総合品評会では(農)美濃いび茶宮地生産組合牛島初男氏が栄えある農林水産大臣賞を受賞したのをはじめ、管内では手摘み部門で２組合、機械摘み部門で３点が特別賞を受賞した。

このほか、セレモニーが行われたアリーナ周辺では「お茶の淹れ方教室」、手揉み茶の実演、茶を使った新商品の紹介、品評会茶の展示、茶の販売等が実施された。農業普及課は、消費者の茶に対する理解の促進、消費拡大に向けたＰＲを支援した。

【写真】品評会受賞茶を味わう
(お茶の淹れ方教室)→

中濃農林事務所農業普及課普及活動状況

平成２３年１０月２８日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり農産物（さといも）

円空さといもの生産状況

10 月に入り、さといものダツが倒れてきており、いよいよ収穫の時期を迎えつつある。

実証ほの収穫調査結果（10 月中旬収穫）では、昨年と比較して、丸いも率は高かった。

今後は、各実証ほの収穫調査を行い、来年度以降の栽培に向けて、栽培管理指導等に結びつけていく。

【写真】ダツが倒れてきたさといも

円空さといも生産振興会議

10 月４日、20 日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの販売方法、新規栽培者の勧誘等について検討し、これまでの検討結果をまとめて、円空さといも産地振興プロジェクトを立ち上げ、取り組みを強化していく。

【写真】農業フェスティバルで販売した円空さといも

就農塾（さといも）

10 月 17 日の就農塾において、さといもの収穫について学習した。塾生からは、収穫だけでなく、貯蔵についての質問も多くでた。

収穫されたさといもは、選別、袋詰めを行い、農業フェスティバルで販売された。

主要農作物の生産振興

■水稲

収穫は順調

水稲の収穫がほぼ終了した。収量・品質は、実証ほの調査では昨年を上回り、登熟障害も見られなかった。

今後は、実証ほ等の収量調査結果を参考にしながら、来年度の課題について整理していく。

■小麦

適期播種の励行

小麦の播種時期を控え、平成 24 年産小麦の栽培管理について、生産者間で確認した。農業普及課では、前年作の品質低下の原因について情報提供し、収量・品質を確保するため、適期播種、施肥管理、排水対策等を徹底していくことを生産者間で申し合わせた。

■採種事業

水稲種子の収穫が終了

10 月 26 日のハツシモの収獲で、水稲種子がすべて終了した。管内の水稲種子生産は、県下の 35%、中でもハツシモは 60%を占めている。

今年は、種子の充実を良くするため、全品種で穂肥の２回施用を徹底した効果もあり、今年の合格種子比率は、昨年の 64%を上回る見込みである。

現在、農業普及課では、あさひの夢・モチミノリ等の生産物審査（発芽率調査）を実施しており、審査に合格した種子は、美濃市にあるＪＡ種子センターで精選が行われ、来年の種子として各地域に配布される。

■いちご

収穫は昨年より早まる見込み

昨年よりも早く、頂果房の出蕾、開花が始まり、収穫も昨年より早く始まる見込みであ

る。親苗生産については、生育は順調で、今のところ目立った病害虫の発生も見られない。今後も生育状況を確認しながら、栽培管理指導を行っていく。

■なす

なすの共同出荷終了

10 月に入り、気温低下による収穫量の減少や、10 月末には市場価格が大きく下落したこともあり、10 月 27 日で共同出荷を終了した。今年は、台風被害を 2 回受けるなど、出荷量が減少した時期もあったが、ほぼ当初の計画どおりに出荷ができた。

今後農業普及課では、本年産なすの生産・出荷状況を振り返り、次年産の改善につなげるための栽培研修会を開催し、中濃なすの生産性向上について支援していく。

担い手の育成・確保

■認定農業者の法人化支援

ブルーベリー経営の法人化相談会開催

10 月 20 日に、美濃市のブルーベリー認定農業者の法人化相談会を開催した。

農業会議の農業経営改善スペシャリストの派遣を受け、法人化に向けた経営のあり方、商品のパッケージや販売方法、マーケティング手法等について検討した。

今後とも、法人としての農業経営改善計画の作成、六次産業化法に基づく支援施策の活用、法人設立に向けた実務と留意点について支援することとしている。

【写真】商品パッケージの検討

■新規就農

新規就農希望者が管内農業を視察

管内在住の新規就農希望者に、管内の農業を知ってもらうため、なす、だいこん、さといも等の先進農家を訪問し、説明を受け、それぞれの農業経営の概要、就農する上での心構え等について研修する機会を設けた。

就農希望者の現状と希望は様々であり、各自に適した農業経営に携われるような支援が求められている。農業普及課では、市、農業委員会、ＪＡと情報共有を図り、中濃地域就農支援協議会の一員として、総合的な支援を行うこととしている。

【写真】現地で説明を聞く就農希望者

地域の動き等

■武儀地区農業婦人クラブ

先進的女性起業を学ぶ研修会開催

10 月 27 日に開催した、武儀地区農業婦人クラブによる視察研修会の運営を支援した。

愛知県大府市の米粉を使った洋菓子を自宅加工所で製造する農村女性や、碧南市の養豚農家の女性が経営する農村レストランなどを視察した。特に、養豚農家の女性は、ハム、ソーセージ加工のためドイツ留学を　２回され、経営方針、経営理念をしっかりと掲げておられ、起業化の先進事例として参考になった。

【写真】熱心に説明を聞くクラブ員

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

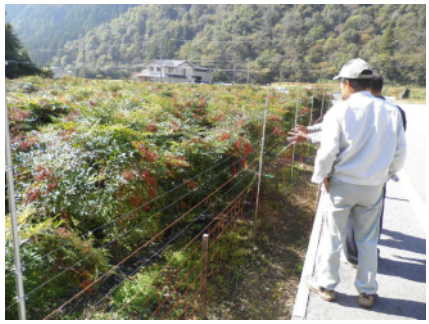
■ナンテン

今年の作柄は概ね良好

郡上八幡南天生産組合は、１０月２０日に作柄調査と役員会を開催し、今年の出荷予測と今後の行事等の検討を行った。

昨年は猛暑干ばつにより出荷量が激減したため、市場からも今年の生育が心配されていたが、概ね良好の作柄を期待できそうとの結果となった。

今後の目揃会等で気象変動に対応した技術の紹介を行い、安定生産を目指す予定である。



【写真】今年の南天の作柄を確認

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

秋にんじん出荷目揃え会

ひるがのファイト倶楽部では、10 月 18 日（火）に秋にんじんの出荷目揃え会を行った。

ひるがの高原にんじんは、糖度計で計測すると 8.5～9.5 度であったことから、食味面で他産地と差別化を図り、有利販売できると思われた。

秋にんじんの出荷は、11 月 20 日まで行う見込みである。

【写真】出荷目揃え会

■活力ある新産地づくり支援事業（夏いちご）

安定生産を目指した実証ほの設置

夏秋いちごの安定生産を目指して、今年度も新技術や新品種の栽培実証ほを設置し、生育調査、収量調査、害虫の発生状況調査等を行ってきた。調査したデータは、これから整理、分析を行い、来年以降の栽培管理に活かしていく。

【写真】品種試験実証

■だいこん

病害虫防除対策

ひるがの高原だいこんの病害虫防除対策は、農業技術センター環境部職員と連携し、現地調査に基づき、植物防疫対策の技術対策を組み立て生産組合へ情報提供している。

本年度は黒斑細菌病の発生は確認されず、市場からのクレームもなかった。一方、地球温暖化の影響もあり、近年ではキスジノミハムシの食害が問題となっており、防除体系の技術確立が急務となっている。農業普及課では、これまでの調査結果からキスジノミハムシの防除対策に一定の目途が付きつつあり、解決に向けて取組を進める。

【写真】農業技術センター内での病害虫試験

■トマト

地域別研修会

１０月１３日～１８日にかけて、夏秋トマトの地域別研修会を実施した。急激な気温低下の影響で着色が進まなくなり出荷量が大幅に減少したため、着色促進のための保温技術に関する内容について研修を実施した。

また、ＧＡＰについてＪＡ担当者に補助をうけながら部会役員による内部監査を行った。

■アスパラガス

収穫終了後の現地検討会

高鷲町のアスパラガスはおよそ 10 月上旬に収穫が終わり、来年に向けての株養成のため収穫後の現地検討会を開催した。

今年度は、一部のほ場で病害が多発し、収穫量が激減した生産者もあったが、２名の生産者が簡易雨よけを導入し、病害の発生を軽減できた。

長期かつ安定的に栽培を続けていくために、今後は組合全員に簡易雨よけの普及を図る。

【写真】トマト地域別研修会

【写真】アスパラ現地検討会

■大麦

麦作推進協議会で施肥改善のための調査実施

平成２３年産の大麦は、早い梅雨入り等春先の天候不順の影響を受け、収量・品質共に課題の多い結果となった。また、平成２２年に小麦から大麦への全面麦種転換を実施して間もないこともあり、農業普及課から美並町麦作協議会に対して施肥体系を再検討するための調査を提案した。

１０月１１日に開催された協議会では、すべての生産者のそれぞれ数点のほ場で土壌調査と生育調査を行い、その結果に基づき施肥改善のための検討を行うことになった。

担い手の育成・確保

研修生、就農に向けてほ場準備

高鷲町では、来年度の夏秋いちごでの就農に向けて若い２人が実務研修中である。10 月上旬からは、研修の合間を利用してハウスの設置を開始し、11 月中にほ場準備を完了する計画で作業を進めている。

来春からスムーズに経営を開始できるよう、冬の間に作業計画等の支援を行う。

【写真】ほ場準備作業の様子

地域の動き等

■郡上市高鷲地域

農産物品評会

郡上市高鷲町では、10 月 16 日（日）にたかすふるさと祭りで農産物品評会が行われた。

審査員は高鷲振興事務所長、ＪＡめぐみの高鷲支店長、普及指導員の３名で行われた。

農産物審査後は市職員が競り販売を行い、売上金は市社会社協議会へ全額寄付された。

【写真】農産物の競りの様子

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

■大豆

青立ち症状に対する対策の試み

中山間地域で問題となっている「タチナガハ」の青立ち症状対策に関して、９月２６日と１０月１７日に白川町で、農業経営課技術支援担当と農業技術センター及び中山間農業研究所の担当者とともに現地検討を実施した。成熟程度に差異があったり、青立ち症状を呈しているほ場については、刈払機で上部葉を切断する等、収穫時の成熟を揃えるための対策を行い、ある程度の効果が認められた。中山間地域では、１０月１７日から収穫作業が開始されているが、本年度の着莢状態は概ね良好で、昨年と比べて収量・品質の向上が見込まれている。

【写真】大豆収穫風景
（10/19、白川町有本地区）

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

坂祝町青ねぎプラグ苗配布

坂祝町青ねぎ生産部会は､夏場の安定的な苗づくりを目指して、部会長のほ場で試行的にプラグ苗づくりに取り組んでおり、１０月１２日に部会員への定植苗を配布した。農業普及課では、用土等の資材を変えて生育比較試験を実施するなど地域にあった育苗方法について検討した。配布した苗は、トンネル栽培で年内出荷、露地で３月出荷を予定している。

【写真】プラグ苗配布の様子

■トマト

管内トマト視察研修会実施

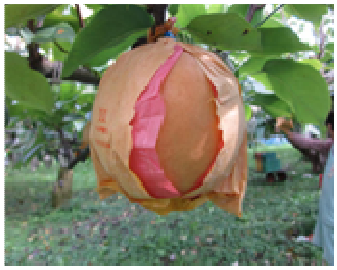
美濃白川夏秋トマト部会の生産者を対象として、９月３０日に管内の優良生産者のほ場視察研修を行った。安定多収技術を導入した実証ほで、成果のあがった要因などを話し合い、収穫終了後の反省会での検討材料とした。

出荷実績：出荷量Ｈ２２年比 128.2%(10/19 現在)

■梨

新高収穫始まる

豊水の収穫が終わり、新高の収穫・販売が終盤を迎えている。本年は果実成熟が３～７日程度遅れ､収穫も遅くまで続いている。例年問題となっている日焼け果がほとんどなく、裂果も一部での発生に留まり、良好な作柄となっている。品質・食味ともに良好であるが、果実が肥大しすぎて、販売面では苦慮している。



【写真】山之上の新高

■茶

秋整枝始まる

前年よりやや早く秋整枝が１０月上旬から始まっており、下旬には終了した。

ぎふクリーン農業登録更新について

本年度更新予定の４戸（法人を含む）は、
遅くとも１１月にはすべて更新手続きが完了する予定となっている。

■いちご

本ぽ定植後の状況について

頂花房花芽分化は平年並み～数日遅れとなり、濃姫は９月１６日頃、紅ほっぺは９月１８日頃が分化期となった。定植は９月１５日頃から開始され、生育の速い生産者は開花揃い期を迎えている。出荷開始は、平年より１週間程度遅れる見込みである。

■花き

フランネルフラワーの消費者モニター調査開始

県育成のフランネルフラワーは、平成１９年から本格的に出荷が始まったが、「購入後の管理が難しい」等の課題が発生している。そこで、消費

【写真】モニター用鉢

者段階での生育状況を把握するため、農産園芸課が主催して可茂総合庁舎に勤務する職員を対象に、消費者モニター調査を実施している。１０月２日に、応募いただいた３１名に４号鉢を配布した。今後、定期的にアンケート調査と写真データの収集を行う。

担い手の育成・確保

■集落営農組織

「集落営農担い手発掘サポート事業」に関する意見交換会

農産園芸課長が１０月１４日に白川町役場を訪問し、標記事業の実施状況の把握、来年度の事業推進に向けた情報収集等が行われた。当日は、集落営農サポーターや町農林商工課長等が出席する中、町から当該事業がモデルとなった室山集落における集落活動活発化の契機となり、今後の事業の継続に向けて事業内容の再検討を求める強い要望が出された。また、サポーターからも、白川町内での就農を視野に入れた、当該集落に対する支援活動継続の申し出があった。

【写真】町課長（右）から意見を伺う

■農業大学校との連携

農業大学校先進農家派遣学習Ⅱ

２学年生が受講する標記派遣学習は、９月２６日に可茂総合庁舎において出発式が行われ、１カ月間の研修が実施された。可茂管内では６名（うち１名は８月に実施済み）の学生が指導農業士等の元で研修を受けた。それぞれ農作業に取り組みながら、疑問に思ったことを農業士等に聞くなど有意義な研修を受けており、１ヶ月の期間を活用して言葉だけでなく、作業の中から農業を感じ取ることもできた様子であった。

【写真】派遣学習中に、農大の担当者が農家を訪問し激励した

地域の動き等

■全域

中濃ブロックＧＬＡＭＡ視察研修会

９月２２日に可茂地区を会場に視察研修会が開催され、中濃地域（武儀、郡上、可茂）の女性農業経営アドバイザーや関係機関の担当者が参加した。当日は、(有)丸富園芸（富加町）や果樹園（美濃加茂市）を視察し、地元女性農業経営アドバイザーから経営状況を聞くとともに、会員相互の交流が活発に図られた。

【写真】視察研修会の様子

■富加町

「田んぼの学校」収穫体験（１０月１２日）

富加小学校の４，５年生９１名の児童が、稲刈りを体験した。収穫したのは、児童らが６月８日に田植えした「もちみのり」。ほ場の管理は富加町愛農会が行っており、同会による指導の下、鎌による収穫が行われた。農業普及課では、同会の活動支援を行うとともに、「田んぼの学校」の他小学校児童に対する食農教育も支援している。

【写真】児童による稲の収穫

■御嵩町

伏見小学校稲づくり体験支援（１０月１８日）

伏見小学校５年生が稲刈り・はさ掛け体験を行った。児童は、地元の農家から提供された学校田において手刈り、稲わらを使用した束ね方、はさ掛けなどを実際に体験し、昔の稲作りの大変さを実感していた。

東濃農林事務所の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

（新規就農者への支援　～就農連携会議の実施～）

【写真】個別就農相談会

新規就農相談者に対する支援を関係機関が連携して行うことを目的とする、今年度２回目の「就農連携会議」を10月27日に東濃総合庁舎において開催し、就農相談情報の共有、就農支援の役割分担を確認した。また、24年度就農をめざしている２名の相談者に対しては、個別就農相談会を実施しながら、市、ＪＡとともに、農地の確保、営農計画の作成を支援し、就農認定に向け準備を進めている。系統出荷の作目がない当管内においては、販路が課題となるため、地場消費を主体に直売所、量販店への直売等、東濃ならではの販路の確保をＪＡとともに助言した。

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

（出荷始まる）

【写真】収穫が始まったブロッコリーほ場(上)と同花蕾(下)

２回の野菜づくり塾での研修を経て、栽培されてきたブロッコリーが収穫期を迎え、10月17日から出荷が始まった。現在の品種は、早生種のピクセル及びスピードドームである。

生育は９月の豪雨で冠水したほ場も含め、大半が順調で、病虫害もほとんど見られない。

販売先は、瑞浪市のプレ直売（来年６月開設予定の農産物等直売所を盛り上げることを目的に週２回開設している直売所）や多治見市・瑞浪市の量販店、土岐市の学校給食等である。

農業普及課では、産地戦略会議を開催し、産地振興に関する関係機関との目標・手法の共有を図り、野菜づくり塾や日常巡回での栽培指導、プレ直売の運営アドバイスや販路開拓にも取り組んでいる。

■水稲

（水稲収穫終了、１等米比率８２．４％）

管内のライスセンターが10月14日に乾燥調製作業を終了した。ＪＡとうとによると10月31日までに、7,924俵が検査され、１等米比率は82.4%で、過去３年間の平均値程度であった。格落理由のトップは未熟米であった。コシヒカリの出穂後（８月第２～第３旬）の高温が大きな原因と考えている。

■大豆

（収穫準備始まる）

瑞浪市で生産されている大豆は、10月13日頃黄葉期となり、落葉が始まっている。今年は平年より２日早く生育しており、収穫も昨年より５日早い11月10日頃を予定している。今年は、９月の集中豪雨により、約１割のほ場で、土砂流入による倒伏害があったが、その他のほ場では、病虫害も少なく生育は順調である。ただし、落葉が遅れている株が散見されるため、収穫に向け葉欠きをする等の作業が予定されている。

■いちご

（開花始まる）

多治見市の養液栽培いちごで開花が始まった。今年は９月の豪雨で施設の一部が浸水し始め、施設周りに土嚢を積んだり、苗が予定数まで生産できずに、苗確保に走ったりと苦

労もあったが、定植後は順調に推移している。
　また昨年からイチゴ栽培を始めた瑞浪市の生産者は、品種を昨年の２品種から濃姫のみに絞り取り組んでいる。一部で出蕾が始まり、近く電照を開始する予定である。

担い手の育成・確保

■土岐市鶴里町

（鶴里小学校との交流）

　鶴里地区集落営農設立準備会では、耕作放棄地の再生活動に取り組んでいる。約20aの耕作放棄地を抜根、草刈、耕起し、６月にひまわりを播種した。同準備会では、このひまわり畑を小学生の食農教育に活用したいと考え、10月21日に鶴里小学校３年生の授業として「ひまわりの種とり作業」を企画、実施した。当日は、晴天に恵まれ青空授業を実施することができた。同準備会の田中会長、長江副会長が、農地を守ることの重要性や準備会の活動について話した後、種とり作業の手順を説明した。児童からは、「たくさん種がとれて嬉しかった」と楽しそうな声が響いていた。

【写真】子供達とひまわりの種とりをする様子

　同準備会では、この日の「収穫物」の一部を学校に提供するとともに、来年の種子とし、さらに学校周辺の耕作放棄地を再生しよう意気込んでいる。
　農業普及課では、この授業を実現するため、小学校の教頭先生等と連携し、ひまわり栽培や採種について技術支援した。

地域の動き等

■多治見市姫地域

（南姫中学校農業体験学習～大豆栽培～）

　多治見市南姫中学校１年生は、地元の農業者の指導により大豆のフクユタカを栽培し、豆腐づくりまでを行う農業体験を行っている。10月６日は、枝豆収穫祭を行い、ほ場の一画に大釜を準備し、収穫したての枝豆をゆでて味わった。
　また、10月31日は、大豆の収穫作業を行った。生徒は、手刈りした大豆を準備した３張のテント下に広げ、自然乾燥させる予定である。
　乾燥後は、脱穀・選別作業を行い、来年２月には、豆腐づくりに挑戦する計画である。

【写真】枝豆収穫の様子

■瑞浪市

（耕作放棄地、にんにく畑に）

　瑞浪市釜戸町平山の「平山桃源郷の里づくり協議会」は、秋晴れの10月29日に同集落の耕作放棄地再生活動を実施した。
　平山集落は、かねてから耕作放棄地対策として、マコモタケの栽培・商品化に取り組んできた集落であるが、この日は、15ａの耕作放棄地をにんにく畑に再生する活動に取り組んだ。
　この活動は、農地イキイキ再生週間の一環としても実施され、県職員も５人が参加して集落住民とともに汗を流した。

【写真】耕作放棄地再生活動の様子

恵那農林事務所の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

ぽろたん焼き栗、秋のイベントで大好評！～県農フェス・中津川じまん祭でデビュー～

管内クリ栽培農家・ＪＡ・市・県現地機関で構成する「東美濃ぽろたん研究会は、県農業フェスティバル(10/22～23)と中津川ふるさとじまん祭(10/28～30)で、新品種「ぽろたん」のＰＲ販売を行った。両イベントでは、ぽろたんの‘大きくて渋皮がポロっとむける’特性を活かし、３Ｌ以上の特大果を、手間のかからない食べやすい形態「焼き栗」として提供した。また「生栗」にレシピ集を付けての提供も行った。

来場客からは、今まで見たことのない不思議なクリへの驚きの声が多く、両イベントで用意した200kgは好評のうちに完売した。今回のイベントでは、平均単価2,400円余/kg(クリの市場平均単価の約6倍)での販売が実現し、栽培農家のぽろたんに対する期待もさらに高まった。

研究会では、ひがしみの農業祭(11/20)で、今年最後となる焼き栗等販売を行う予定である。

【写真】お客さんで賑わうぽろたん販売コーナーと焼き栗(右上)＆生栗(左下)

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

エメラルドグリーンの輝きも鮮やかに～ブロッコリーの出荷始まる

10月11日、ＪＡ東美濃が主催するブロッコリー目揃会が恵那市三郷町で開催された。ブロッコリーは管内で営農組合を中心に1.2ha栽培されており、10月初めから出荷が始まり11月中旬までの出荷を予定している。

本年は若干生育が早まったことから、目揃会当日には会場に500個以上のブロッコリーが並び、JA・全農岐阜県本部から出荷規格等について、農業普及課から今後の管理について説明後、実際の作業を見ながら手順の確認が行われた。

【写真】規格を確認する生産者及び関係者

■飼料用稲

耕畜連携に向けて～飼料用稲・わら流通検討会を開催～

農業普及課は10月11日、ＪＡ東美濃と連携して、飼料用米と稲わらの流通検討会を開催した。管内では、本年度域内流通の飼料用米及び稲わらが約21haで栽培されている。収穫が本格化するに当たり、生産状況や引き渡し方法などについて耕種・畜産双方が出席し、生産量並びに消費量の見込みに関する意見交換を行った。また、関係機関からは、飼料用米の流通に関する留意事項や、新技術の情報提供がなされた。

【写真】鉄コーティングの成果を説明する普及指導員

■黒大豆

見せる、診せる、魅せる普及指導活動～黒大豆収穫前現地巡回研修会を開催～

農業普及課は、10月14日に東美濃黒豆生産者協議会と連携して、黒大豆（早生品種）収穫前現地巡回研修会を開催した。黒大豆については、個々の技術で栽培されているが、現地巡回により他者の管理方法や生育状況を共有し、農業者相互で情報交換することができた。また、収穫期を迎えた早生品種の適期収穫に向けた意識を高めることができた。

【写真】現地を見て、状況を診て、黒大豆の魅力を確認した現地研修

→

■恵那花き研究会（花き）

シクラメン発祥の地、恵那をＰＲ！　恵那花き研究会が「のぼり」を制作

日本でのシクラメン生産は恵那の地で始められたと言われている。恵那市の養蚕農家に生まれた伊藤重孝氏が、家業を継ぐために入学した上田蚕糸専門学校の修学旅行中に出会ったシクラメンに魅せられ、日本での栽培は大変珍しかった時代に独学で生産を始めたと伝えられている。

今では日本全国に広がったシクラメン生産であるが「シクラメン発祥の地」は他産地との差別化を図るキーワードになると、本年初めて恵那花き研究会の「のぼり」を作成し、10月22､23日に開催された県農業フェスティバルで活用した。

今後は、直売所への設置、生産物を取り扱う小売店での使用を計画しており、夏期冷涼な気候を活かした品質の良い当地域の花きの指名買いにつなげたいと効果を期待している。

【写真】農業フェスティバルで活用した研究会の「のぼり」

■夏秋トマト・なす

ひがしみのＧＡＰ内部監査を実施

東美濃夏秋トマト・なす各生産協議会では、10月中旬～11月上旬にかけて、３年目となるひがしみのＧＡＰの内部監査を実施した。今年度は、できなかった項目を０にするため、技術情報や各地域の研修会で、改善点を示し実施してもらうよう取り組みを進めた。

内部監査では、監査員、ＪＡ担当者とともに、各項目についてチェックを行った。できたの項目がほとんどであったが､一部不十分な項目についてはその場で改善策を示し、実行してもらうよう指導した。

農業普及課ではＧＡＰ推進委員会と共に、これまでの取組をもとに危害要因や問題点を洗い出し、次年度以降のＧＡＰの見直しにつなげていく予定である。

【写真】現場確認、実施状況の聞き取りを行う内部監査員

担い手の育成・確保

■就農支援

チャレンジ塾及び両市就農支援講座でパイプハウス組み立てを学ぶ

当地域ではトマト、なす各生産協議会主催の栽培者育成講座「トマト・なすチャレンジ塾」と、中津川市と恵那市がそれぞれ開催する就農支援講座を開催しており、農業普及課では講義や実習の計画・実施両面で運営支援を行っている。

10月23日には中山間農研中津川支所にて、約20名の出席者のもとパイプハウスの組み立て実習を行った。当日は時折降雨があり、足下がぬかるむ悪条件であったが、いずれの受講者も熱心な姿勢で実習に参加した。農業普及課では作業見本を示しながら講座を進行し、約２時間で間口６ｍ、長さ５．５ｍのパイプハウスを完成させ、さらにハウスの解体・運搬や片付けまで含め参加者による実習を行った。

チャレンジ塾については次月が最終回となり、経営試算を残すのみとなったが、農業普及課では受講者全員が来年からの生産出荷活動に参加できるよう、講座運営に取り組む予定である。

【写真】ハウス建てに取り組む受講者

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業「龍の瞳」

「龍の瞳生産者大会」並びに「新米コンテスト」盛大に開催

10 月 23 日に「龍の瞳生産者大会」、「環境に優しい米づくり講演会」並びに「めざせ世界一！安全でおいしい新米コンテスト」が下呂市萩原町の「南ひだ健康道場」にて開催された。主催は、「合資会社龍の瞳」で、毎年開催されている地元実行委員会主催の「秋の大収穫祭」にコラボレーションさせる形で今年初めて開かれた。

○生産者大会および講演会

「合資会社龍の瞳」と契約栽培している生産者が岐阜県各地他から集まり、参加者数は 100 人超となった。午前中の生産者大会では、今年度の生産について意見交換をするとともに来年度の生産に向けた課題について検討を行った。

午後は、環境に優しい米づくりの推進を目的に、千葉県在住で、日本不耕起栽培普及会会長岩澤信夫氏が「不耕起栽培と食の安全」と題して講演会を行った。

【写真】生産者大会（下呂市萩原町）

○新米コンテスト

「龍の瞳」と「地元産米」の PR を目的に「第１回めざせ世界一！安全でおいしい新米コンテスト」を開催した。

出品は、龍の瞳各生産組合から選抜した龍の瞳６点と地元コシヒカリ３点の計９点で行った。どの米かわからないようにして来場者に９点全てを食べて貰い、一番気に入った米に票を入れて貰う方式で、263 人が審査を行った。

どの米も甲乙付けがたいほど美味しいものであり、発表は最優秀賞（恵那切山龍の瞳生産組合）のみとした。

【写真】新米コンテスト
（下呂市萩原町）

○農業普及課の対応

「龍の瞳」は、「ぎふ農業・農村基本計画」において飛騨牛につづくトップブランド候補品目に位置づけている。このため下呂農林事務所農業普及課では、「活力ある新産地づくり支援事業」の対象品目とし、23～25 年度の３か年間を計画年として重点的に活動を行っている。重点指導事項は、「組織運営の強化並びに生産の振興」と「龍の瞳による地域起こし」の二本としている。

今回は、「龍の瞳による地域起こし」の核となる活動であり、８月に「下呂地域産地戦略会議」にて方針を決定し、下呂市他と連携して支援を行った。

主要農作物の生産振興

■トマト

益田夏秋トマト生産組合視察研修開催

益田夏秋トマト生産組合は、10 月 11 日に下呂夏秋トマト生産組合の農家３戸（御厩野地区）と加子母トマト生産組合の農家１戸のほ場を視察した。

現在、飛騨トマト部会では、着果性がよく、収益も上がり、より栽培しやすい品種として、今年から新しい２種類の品種を試験的に栽培している。

下呂夏秋トマト生産組合でも同様の品種試験を行っており、その状況等について視察した。

【写真】視察研修
（中津川市加子母）

農業普及課としては、この品種試験の結果を元に成績の比較を行う。来年度も試験を続けてデータを蓄積を行い、より作りやすく収益の上がる品種を考えていく。
また、加子母トマト生産組合の農家のほ場では、お互いの夏秋トマト栽培の生産方法の考え方について意見交換を行った。

■柿

南飛騨富士柿の収穫状況調査

10月5日に「富士干柿生産グループ」（会員22名）の代表および役員3名と農業普及課職員1名で今年の南飛騨富士柿の収穫状況を調査した。
南飛騨富士柿は、古くから栽培されている特色ある野菜や果樹として、県では、飛騨美濃伝統野菜の1つに認証されている。
この柿は 11 月上旬ころに収穫され近くの市場に出荷される。また、干し柿としては、12月上旬に出荷予定である。
調査結果としては、去年は、2万個ほどを出荷したが、今年は去年以上に収穫が見込めそうであった。
しかし、防除をしていない柿の木は葉が落ちてしまい柿の実があまりついていない状態であったため、農業普及課としては、来年以降防除の不十分な会員には、防除の徹底を指導した。

【写真】よく実った南飛騨富士柿
（萩原町）

■茶

ひだ金山茶生産組合現地研修会開催

ひだ金山茶生産組合では、普及指導員を講師として、10月6日に 20 人の会員が金山町内の公民館で栽培研修会を開催した。
室内研修では、来春に高品質の一番茶を生産するための秋整枝の方法など今後の栽培管理方法について研修した。
現地研修では、会員の茶園を使って、秋整枝の実際の作業方法などを参加者で確かめ合った。
参加した会員は、真剣な表情で作業を見守っていた。

【写真】金山茶講習会
（下呂市金山町）

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成２３年１０月３１日

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

ぎふ伝統食文化グランプリ受賞！

10 月 10 日イオン各務原ショッピングセンターにて「ぎふ伝統食文化グランプリ（県とイオンの包括提携協定による開催）」の２次審査が行われ、農業普及課は、宿儺かぼちゃの試食・プレゼンの実施を支援した。

当日は１次審査を通過した県下６団体が試食、ＰＲを行い、宿儺かぼちゃ研究会が最優秀賞・県知事賞を受賞した。また、試食した一般客約 100 名による人気投票も行われ、お客様賞は中津川市の「ごへーもち」が受賞した。

【写真】県知事賞を受賞

■活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

「飛騨黄金」新規栽培者の募集！

今年も「飛騨黄金」の出荷が無事終了したが、天候不順やアブラムシなどの害虫が多発し、例年になく栽培に苦慮した年となった。

年々、生産者数、出荷量ともに増えているが、まだまだ目標の 100 万本に達していない状況である。今年も新規栽培者を下記の様に募集し、説明会を行う予定である。

【写真】満開の「飛騨黄金」

☆新規栽培者説明講習会
日時：１２月７日（水）19 時～20 時
場所：ＪＡひだ本店　１階研修室
お問い合わせ・連絡先：
飛騨農林事務所農業普及課　　安江隆浩　TEL　0577-33-1111（内線 263）
JA ひだ本店営農販売部園芸課　田中雅彦　TEL　0577-36-3880

主要農作物の生産振興

■飛騨トマト

地球温暖化現地検討会（第２回）開催！

10 月 13 日、夏秋トマト地球温暖化現地検討会を開催し、普及支援協会、国研究機関、資材メーカー、農業普及課の関係者で、今年の夏の高温対策実証ほの成果について検討した。

丹生川町の循環扇（ファン）設置ほでは、ハウスの環境改善（涼しく感じる）及び灰色かび病抑制効果が確認された。また、清見町の通路潅水実証ほでは、樹勢維持及び着果数増加効果が確認された。

今年は、昨年ほどの猛暑ではなかったが、生産現場では樹勢低下や天候不順による病害果多発等、単収を落とす問題が発生した年だった。いずれの実証ほも良い成果を上げており、この成果を夏の高温対策、ひいてはトマトの単収向上対策として、今後普及していきたい。

【写真】ﾎﾞﾙﾅﾙﾄﾞﾌｧﾝ設置ほ
（丹生川町）

■飛騨ほうれんそう

ホウレンソウケナガコナダニ防除の研修会を開催！

10 月 4 日、ＪＡひだ本店にて、飛騨ほうれんそう部会主催による「ダゾメット剤によるホウレンソウケナガコナダニ防除の研修会」が開催された。

本虫は、ほうれんそうの難防除害虫であり、長年、対策について検討されてきたが、このたび、中山間農業研究所の研究でダゾメット剤の秋冬処理が本虫の防除に効果があると認められたことにともない、生産現場からは今年の処理に間に合わせたいとの強い要望があった。

このため、農業普及課は、当研究所の担当研究員を講師に招き、ダゾメット剤の秋冬処理を研修できるよう関係機関への働きかけと調整を行った。研修会には生産者等約 100 名が参加し、熱心に説明を聴く姿から関心の高さが伺えた。今後、農業普及課としては、ダゾメット剤を使用する生産者へ技術指導を行うとともに、現地での効果確認を行う予定である。

【写真】研修会（ＪＡひだ本店）

担い手の育成・確保

■指導農業士会飛騨支部（全域）

先進農家受け入れ反省会を開催！

10 月 18 日、高山市にて、指導農業士会飛騨支部主催による農大生、高校生受け入れの反省会が開催され、指導農業士の夫人、農業大学校・飛騨高山高校・農業普及課の関係者 18 名が出席した。

反省会では、指導農業士の夫人から生徒の作業や生活態度を褒める意見があった他、飛騨地区では宿泊研修が基本であるが、農作業と家事への負担から、長期間の場合は通いでの研修選択も含めて欲しいとの要望もあった。

地域の動き等

■高山市丹生川町

農林事務所職場研修を開催！

10 月 5 日、(有)橋場農園にて、農林事務所職員を対象とした「職場研修」を開催し、生産から加工・販売までの６次産業化の事例について学んだ。

研修には 23 名が参加し、トマトジュースなどの取り組み経緯、販路の開拓・値決め等苦労した事や消費者に買ってもらうためのポイント、収益性などについての説明を受け、農地整備・林務等他分野に携わる職員の見識も広がり有意義な研修であった。

【写真】トマトジュース加工場見学（丹生川町）

今後の主な行事予定

・１１月　１日（火）　岐阜県指導農業士連絡協議会パートナー研修会（高山市）
・１１月２２日（火）　農業教育連絡協議会（高山市・飛騨高山高校山田校舎）

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成 23 年 10 月 31 日現在

１　専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（１）効率的･効果的な普及活動の支援

◆経営管理支援データベースの Windows７における動作検証について

GAIBPC の更新が順次行われる中、今年度更新から OS が WindowsXP から Windows７(32bit)へと切り替わった。OS のメジャーバージョンアップであり、各システムで動作確認、検証が行われている。そのような中、各農林事務所農業普及課で運用されている経営管理支援データベースの Windows７上での運用について動作確認を行った。クライアント機能については、インストール時に XP 互換性モードを設定し実行することで、通常の活動記録等の作業について問題なく動作することを確認した。

ただし、サーバーパソコンとしての運用は、通常のインストーラーで導入した場合において運用不可であることが確認されたため、今のところ既存の XP パソコンでの運用が望ましい。（農業経営担当：遠山敬司）

（２）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証･普及

◆アイガモロボット研究推進会議で今年度の検証を

アイガモロボットによる除草技術開発の研究が、農林水産省の「新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業」で採択されて２年目となり、岐阜農林事務所管内の現地で実証を進めている。10 月７日に 23 年度の中間検討が行われた。自動走行も概ね順調になり、残るは旋回方法を安定化させることと、色々な圃場条件に対応させるマニュアル作りへと移行させる段階となった。実証現場の生産者も継続使用する意向があり、またＴＶ等各種メディアにも取り上げられて他県からの利用申し込みも増えており、いよいよその完成が待たれる。（土地利用型作物担当：吉田一昭）

（３）行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆カキ防除暦作成にかかる技術支援

大野町かき振興会技術部会員を対象に、現地担当の普及指導員と共同で今年のかき栽培の経過を報告するとともに、防除暦作成にあたっての情報提供を行った。今年は梅雨明けは例年に比べ早かったものの、７月下旬の雨や２回の台風接近により病害の発生が多く、特に「炭そ病」による被害を受けた園が多かったことから、本病の生理生態、冬季の管理および薬剤の効果等を中心に情報提供を行った。

（果樹担当：石川嘉奈子　病害虫担当：鈴木俊郎）

２　その他

◆岐阜柿中間販売検討会及び富有柿統一目揃会が開催される

10 月 21 日（金）に岐阜柿中間販売検討会及び富有柿統一目揃会が開催され、今年産カキ出荷状況の中間報告と今後の富有柿の出荷計画が検討された。今年の 10 月前半までの出荷量は、記録的に不作であった前年と比較して数量 98%、単価 84%で、数量が伸びていない。これは、西村早生が大きく減少した影響によるものである。11 月 1 日から出荷が始まる富有柿の数量は、前年より大きく増加する見込みで前年比 163%を予想している。現在のところ果実肥大、着色は平年並みで高品質なカキが期待できる。

富有柿目揃い会（出荷規格の確認）

今後普及課と連携して、各地区生産者組合が、市場からの要望に応えて正確な出荷情報を提供できるよう支援をしていく。

（果樹担当：石川嘉奈子）